

海外研修報告

第3回アジア東部地区選手権大会に参加して

助手 濱田幸二
(コーチ学講座)

はじめに

2002年8月8日から8月15日まで中国は上海で行われた第3回アジア東部地区選手権大会に、全日本大学選抜女子バレーボールチームのトレーナーとして参加してきた。このアジア東部地区選手権大会(2年に1回ユニバーシアード開催年の隔年に行われる)は、アジア東部地区の友好と競技力向上に寄与するため1996年から、アジアバレーボール連盟(AVC)主催で行われている。参加国はこれまで、日本、中華人民共和国、大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国、香港、台湾、マカオ、モンゴル、タイ、フィリピンであったが、今回は朝鮮民主主義人民共和国、タイ、フィリピンが不参加で合計7ヶ国参加の大会となった。

大会会場は、上海郊外の上海大学(移転後の新キャンパス)で行われた。宿舎も学生宿舎を利用し大変快適な大会を送ることが出来た。

1. 選手及びコーチングスタッフについて

全日本大学選抜女子チームの選手及びコーチングスタッフは、平成13年度の各大会において選考され、最終的には平成14年5月上旬の全日本大学バレーボール連盟強化委員会において決定された。また、選考に際し今回は平成13年度の全日本大学選手権大会で優勝した嘉悦大学を中心に、平成15年8月に行われるユニバーシアード韓国大会も行って選手の選考を行った。

監督：坂口憲政(嘉悦大学：監督)

コーチ：佐藤伊知子(東北福祉大学：監督)

トレーナー：濱田幸二(鹿屋体育大学：監督)

主将：1 高橋 牧子(東海大学4年 センター 180cm)

2 東 圭子(筑波大学4年 セッター 166cm)

3 窪田 聖香(鹿屋体育大学4年 センター 173cm)

4 山城 未沙(東海大学3年 レフト・ライト 177cm)

5 相蘇 香奈(東北福祉大学3年 レフト 172cm)

6 中家亜由美(嘉悦大学2年 レフト 172cm)

7 木村智香子(青山学院大学2年 レフト 177cm)

8 渡部 侑子(嘉悦大学2年 センター 173cm)

9 武笠麻衣子(嘉悦大学2年 セッター 163cm)

10 梅田恵美子(嘉悦大学2年 リベロ 165cm)

11 原田 美樹(福岡大学2年 レフト・ライト 176cm)

12 福田 舞(嘉悦大学1年 ライト 174cm)

2. 事前合宿について

第3回アジア東部地区選手権大会に向けて、第1次合宿から第4次合宿まで計17日間の強化合宿を下記のように行った。

第1次合宿：平成14年6月8日～9日 嘉悦大学(東京)

第一回目の合宿が行われた。1泊2日と短い期間であったが、これから約2週間でチームを作り勝利しなくてはならない。選手個々の能力を見極め、坂口監督の下、指導に一貫性を持たせ「ジャンピングサーブとバックアタックの技術の運用」、「バレーボールの男子化」、「2種類の戦術融合(クイックと強打)」を選手及びスタッフに浸透させる合宿であった。

第2次合宿：平成14年7月22日～26日 嘉悦大学(東京)

紅白練習試合を中心に行った。セッターとのコンビネーションが徐々に取れるようになり、チーム力も上がってきた。また、日本代表としての自覚も明確に現れ練習も活気あふれるものとなって

いった。

第3次合宿：平成14年7月26日～29日 東海大学（神奈川）

戦術の確認を中心に行い、スターティングメンバーもほぼ固まり練習試合を行うことにより、選手の役割も明確になってきた。

第4次合宿：平成14年7月29日～8月5日 デンソー（愛知）

Vリーグ所属のデンソーと練習試合を行い、最終的な調整を含めて強化合宿が順調に進んでいった。今回国際大会初となる選手が数名いたが、昨年の北京ユニバを戦った選手（高橋、窪田、相蘇）がチームを引っ張り、後は大会を待つのみとなった。

結 団 式：平成14年8月5日 成田エクセルホテル（千葉）

翌 日 8月6日 成田空港
上海へ

現 地：平成14年8月6日～8日 現地（上海）練習会場にて調整練習

3. 大会期間について

女子バレーボール競技は、7ヶ国参加で、試合は、7ヶ国総当たりのリーグ戦で行われた。順位決定は、勝率 セット率 得点率の順で決められた。

8月9日（金）

第1戦 日本 3(25-16.25-15.25-12)0 韓国
スターティングメンバー

| | | |
|---------|---------|---------|
| 12福田 舞 | 8 渡部 侑子 | 5 相蘇 香奈 |
| 7 木村智香子 | 3 窪田 聖香 | 9 武笠麻衣子 |

リベロ10梅田恵美子

大会初日の相手は、韓国（2003年ユニバーシアード開催国）であった。日本は出だし少し緊張気味であったが、徐々にリズムを出していき、攻撃面ではセンター窪田、渡部を中心に速攻コンビバレーが出来尻上がりになってきた。ただ、2セット目中盤ゲームキャプテンの窪田が負傷（捻挫）して

しまい途中退場となった。今後ゲームキャプテンであり、コンビ攻撃の中心でもある窪田が抜けることでチーム力に影響が出なければと思われた。

8月10日（土）

第2戦

日本 2(25-18.26-28.15-25.25-16.10-15)3 台湾
スターティングメンバー

| | | |
|----------|---------|----------|
| 11原田 美樹 | 8 渡部 侑子 | 5 相蘇 香奈 |
| 7 木村 智香子 | 12福田 舞 | 9 武笠 麻衣子 |

リベロ10梅田恵美子

1セット目昨日までライトをしていた12福田舞を負傷した窪田のセンターにコンバートし、そこに11原田美樹をスタートで投入し、これがあたり先取する。対する台湾チームは、2002年夏アジア大会（韓国釜山）に出場するメンバーで構成されていた。一進一退の攻防の末フルセットで負けてしまったが、残りの試合を全てストレート勝ちし、優勝に望みをつなげたい。

8月12日（月）

第3戦 日本 3(25-5.25-21.25-12)0 モンゴル
スターティングメンバー

| | | |
|----------|---------|----------|
| 5 相蘇 香奈 | 8 渡部 侑子 | 6 中家 亜由美 |
| 7 木村 智香子 | 12福田 舞 | 9 武笠 麻衣子 |

リベロ10梅田恵美子

センター窪田の抜けた穴を、中国戦（15日）に向けて試行錯誤が始まった。この様な不測の事態に選手達は一致団結し、チーム力は不思議と向上するものである。コンビネーションのミスは確かにあるが、選手の「がんばり」が目に見えてわかる試合であった。

8月13日（火）

第4戦 日本 3(25-16.25-15.25-6)0 香港
スターティングメンバー

5相蘇 香奈 8 渡部 侑子 6 中家 亜由美
7 木村 智香子 12 福田 舞 9 武笠 麻衣子

リベロ10梅田恵美子

5相蘇 香奈 8 渡部 侑子 6 中家 亜由美
7 木村 智香子 12 福田 舞 9 武笠 麻衣子

リベロ10梅田恵美子

中国戦に向けてチームの修正, 特にセンター線 (福田, 渡部) の2次攻撃, 3次攻撃を意識しながらゲームを行った。また, セッターへの返球率も含めて短い時間ではあるが, コンビネーション攻撃を確立したい。

8月14日(水)

第5戦 日本 3 (25-8.25-8.25-9) 0 マカオ
スターティングメンバー

5相蘇 香奈 8 渡部 侑子 6 中家 亜由美
7 木村 智香子 12 福田 舞 9 武笠 麻衣子

リベロ10梅田恵美子

本日台湾が中国にフルセットで負けたことで, 日本チームにももう一度チャンスが巡ってきた。明日は総力を挙げて戦いたい。チーム力も窪田の抜けた穴を十分カバーできるまでになってきている。優勝目指して頑張りたい。ムードもいい。

8月15日(木)

第6戦 日本 3 (24-26.13-25.25-23.25-23.15-11) 2 中国
スターティングメンバー

「サービスの狙う位置」と「ブロッキングの対応」の戦術を持って試合に臨んだ。1セット目終盤23-21とリードしたもののサーブで崩されジュースのうえ敗れる。セットをとらてたが戦術・戦法が間違っなかったため, 後は勢いであった。2セット目は逆に相手に勢いつかせてしまい一方的に敗れる。3セット目以降全選手が「ふっきれ」, スパイクにレシーブに冴えを見せフルセットへもつれ込んだ。最終5セット目は終始日本がリードし勝利することが出来た。

まだ若い日本チームに勝利に対する執念が稔りつつある。技術面の課題が残されたが, 平均身長180cm以上ある中国に勝利したのは, 自信になったことだろう。

最終順位

1位: 中国 2位: 台湾 3位: 日本 4位: 韓国 5位: モンゴル 6位: 香港 7位: マカオであった。

1位~3位は勝率で並び, セット率でも並び, 得点率で順位が決められた。優勝した中国に勝ったものの, 勝負所の1点に泣いた3位であった。東アジア地区と限定された地区ではあるが, 中国や台湾はシニアナショナルクラスの選手を送り込

表1 上位3ヶ国対戦別勝敗表(中国・台湾・日本)

| | 中国 | 台湾 | 日本 | 勝敗 | 得セット | 失セット | セット率 | 総得点 | 総失点 | 得点率 | 最終順位 |
|----|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|------|------|------|------|-----|-----|------|------|
| 中国 | | 3 (25-17,23-25,25-17,17-25,15-12) 2 | 2 (26-24,25-13,23-25,22-25,11-15) 3 | 5勝1敗 | 17 | 5 | 3.40 | 512 | 339 | 1.51 | 1位 |
| 台湾 | 2 (17-25,25-23,17-25,25-17,12-15) 3 | | 3 (18-25,28-26,25-15,16-25,15-10) 2 | 5勝1敗 | 17 | 5 | 3.40 | 498 | 336 | 1.48 | 2位 |
| 日本 | 3 (24-26,13-25,25-23,25-22,15-11) 2 | 2 (25-18,26-28,15-25,25-16,10-15) 3 | | 5勝1敗 | 17 | 5 | 3.40 | 503 | 352 | 1.43 | 3位 |

表2 下位4ヶ国対戦別勝敗表(韓国・モンゴル・香港・マカオ)

| | 韓国 | モンゴル | 香港 | マカオ | 勝敗 | 得セット | 失セット | セット率 | 総得点 | 総失点 | 得点率 | 最終順位 |
|------|-------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------|------|------|------|------|-----|-----|------|------|
| 韓国 | | 3 (25-19,25-15,25-16) 0 | 3 (25-12,25-22,25-15) 0 | 3 (25-10,25-12,25-5) 0 | 3勝3敗 | 9 | 9 | 1.00 | 364 | 351 | 1.04 | 4位 |
| モンゴル | 0 (19-25,15-25,16-25) 3 | | 3 (25-22,25-18,23-25,25-23) 1 | 3 (25-22,25-16,25-13) 0 | 2勝4敗 | 6 | 13 | 0.46 | 328 | 439 | 0.75 | 5位 |
| 香港 | 0 (12-25,22-25,15-25) 3 | 1 (22-25,18-25,25-23,23-25) 3 | | 3 (25-18,25-12,25-13) 0 | 1勝5敗 | 4 | 15 | 0.27 | 301 | 441 | 0.68 | 6位 |
| マカオ | 0 (10-25,12-25,5-25) 3 | 0 (22-25,16-25,13-25) 3 | 0 (18-25,12-25,13-25) 3 | | 0勝6敗 | 0 | 18 | 0.00 | 202 | 450 | 0.45 | 7位 |

んできた。平成15年は韓国でユニバーシアードが行われるが、地元韓国がどの様にチーム強化をしていくか分析を急ぎたい。

国内大会と違い「環境」が全く違う海外で戦うことは大変難しい。今回の経験を生かし、是非この中からオリンピックに出てメダルを獲得する選手が出て欲しいと思われた。

4. 上位3ヶ国（中国・台湾・日本）についての所感

中国チームについて

スターティングメンバーの平均身長が183.5cm（SD3.83）であった。攻撃的なサウスポセッターを中心に、高さを生かした速攻コンビバレーを得意とするチームであった。まだ、試合運びが雑で、若さが見られたためリードしているときは爆発的な攻撃を仕掛けてくるが、競った場面やリードされるとミスが連続して出るようなチームであった。しかし個々の選手の得点能力は高い。

台湾チームについて

スターティングメンバーの平均身長が174.3cm（SD5.09）であった。攻撃はスーパーエースを中心とし、コンビネーションの中でバックアタックを織り交ぜてくる。チーム全体として守備力が大変すばらしく、崩れないチームであった。戦術により二人のセッターを適時交代させ、攻撃パターンを自在に変えていた。ユース ユニバ シニアと一貫指導の成果と思われる。

日本チームについて

スターティングメンバーの平均身長が171.8cm（SD4.71）であった。大会初日にゲームキャプテン窪田聖香が負傷したことで急遽布陣を変えて試合に臨んだ。全体的に中型選手で、攻守両方とも出来る選手が揃っていた。戦術もチームコンセプトである「ジャンピングサーブとバックアタックの技術の運用」、「バレーボールの男子化」、「2種類の戦術融合（クイックと強打）」の3つを課題に短期間ではあったが、意識して大会を通して実行できたのではないかとと思われた。

5. まとめ

本学女子バレーボール部は平成14年度強化指定団体となっておりました。その様な状況の中で強化コーチがチームから離れ、長期にわたりナショナルチームのスタッフに参加させていただき、関係各位には感謝申し上げます。私自身は世界のトップコーチ達と身近にふれあい、情報交換を毎日行い最先端の世界と接す事が出来ました。この経験を本学で生かすよう努力していきたいと思えます。選手育成及びチーム強化に即効性はありません。国内チャンピオンはもとより、世界で通用する選手育成が出来るよう、この様な経験を生かしていきたいと思えます。



最終戦終了直後 右端が筆者、前列背番号3番が窪田聖香



選手村にて モンゴルチーム監督（中央）と



表彰式



男女集合写真（日本は男女とも3位であった）